

平成 31 年度第 1 回多治見市総合教育会議 議事録

(要点筆記)

日 時：令和 2 年 1 月 29 日（水）午後 2 時 00 分 ～ 午後 3 時 20 分

場 所：多治見市役所駅北庁舎 4 階第 2 会議室

出席者：【会議構成員】

多治見市長	古川雅典
教育長	渡辺哲郎
教育委員（職務代理者）	大嶽和好
教育委員	中澤香代
教育委員	木下貴子
教育委員	加藤智章

【事務局】

《教育委員会》

鈴木副教育長、田中教育次長、佐藤教育総務課長、熊崎教育研究所長
松田調理場長、伊藤教育委員会事務局課長（放課後児童健全育成調整担当）
東山教育推進課主幹、丸山教育指導監、大前課長代理（教育推進課）
山本（元）課長代理（教育総務課）、山本（智）課長代理（教育総務課）
後藤総括主査（教育相談室）、岡安総括主査（教育総務課）
大嶋総括主査（教育総務課）

《市長部局》

水野課長代理（企画防災課）、伊藤主査（秘書広報課）

《校長会》

安藤校長会長（多治見中学校長）

1 市長挨拶

今日はまず、スライドと動画を見てもらいたい。本年は市制 80 周年にあたる。市制 80 周年のロゴは、NHK 連続テレビ小説「半分青い」のロゴを手掛けた笠原出身の谷口佐智子氏に手掛けてもらったものである。本年は、市制 80 周年記念として事業が目白押しである。

また、セラミックバレーのロゴは、日本トップレベルの工業デザイナーの佐藤卓氏に手掛けてもらった。このロゴは、現在放送されている NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」にも登場する斎藤道三の旗と色使いが同じである。国際陶磁器フェスティバルを盛り上げ、多治見市・土岐市・瑞浪市・可児市によるセラミックバレーを世界に発信していく。世界に出ていくには、やはり根底にしっかりとした教育が必要だと考えている。大切なのは、「本物」であることである。

また、2 年後の秋には駅南再開発が完了する予定である。29 階建の住居棟や、屋上に大浴場を備えた 14 階建のホテル棟ができる。ホテルでは、宿泊者が朝食をとるスペ

ースを、夕方には学生などに交流スペースとして提供してくれることとなっている。いずれの施設も笠原のタイルを活用してくれることとなっている。

約 500 台収容可能な立体駐車場は、笠原の事業者 2 社に民設民営で運用してもらうこととなっている。その他、商業棟、業務棟などがある。

総事業費は、187 億円となるが、国費や民間資金を活用し、スピード感を持って街並みを実現していく。また、駅の北側については、市として、現在キメラのある場所を本庁舎の移転最適地として結論を出しており、今後市議会に最終的な判断を委ねることとなっている。

市制 80 周年である今年は、その他小泉小学校、食育センターの建設など、多治見市が大きく動く 1 年間である。教育委員各位においても、自身の目で確認してほしい。

2 教育委員長挨拶

多治見市の最大の強みは、市長部局と教育委員会の連携である。その結果、エアコンの設置など、スピード感をもって実現することができた。

本日もこの場でしっかりと情報共有し、今後も大きな事業を実現していきたい。

3 議題

(1) 教育大綱の改定について

【木下委員】

「特色ある教育」が「健やかな学び」に変更されているが、変更の趣旨は何か。

【鈴木副教育長】

「特色ある教育」は、施策ありきというような誤解を与えかねない。また、本来「特色ある教育」は、子どもたちの「健やかな学び」を支えるための手段として位置付けられるものである。本来の目的を明確にするという観点で、文言の見直しを行った。

【木下委員】

「健やかな学び」を実現するために「特色ある教育」が位置付けられているとのことだが、特色ある教育として今後も継続していくものにはどのようなものがあるか。

【鈴木副教育長】

4 大プランは、引き続き取り組むべき、多治見市の特色ある教育である。その中でも、とりわけインクルーシブ教育における巡回相談、スマイルブックなどは、これまでも更なるブラッシュアップを遂げている。

【後藤総括主査】

幼保・小中学校など、縦のつながりを大切にしたいと思っている。個々の子にどのような力を身に着けていってほしいか、5年後、10年後を見据えた取り組みが必要である。また、個々の児童生徒に合った学びの場も大切である。

【中澤委員】

インクルーシブ教育におけるアセスメントの方法について説明してほしい。

もう一点、「発達障がい」という言葉はネガティブに捉えられがちである。そこで例えば「発達個性」や「発達特性」などの言葉に置き換え、障がいではなく個性のひとつとして捉えることで、もっと積極的な意味を持たせてもよいと感じている。そうすることで、療育も受けやすくなるのではないかと思う。

【後藤総括主査】

アセスメントについては、保健センターの協力を得て、発達検査をおこなっている。ただし、そこで得た数値だけでは判断できないため、園・学校の先生や教育相談室職員などの意見を踏まえ、総合的に判断している。

【副教育長】

「発達障がい」という言葉が、学問用語等で現に存在しているのは事実であるが、実際、教員間で「発達障がい」という言葉を使用することはほとんど聞いたことがない。教員間・保護者には「発達に困り感のある子」が一般的である。言葉を置き換えて使用することについては、検討させてほしい。

【古川市長】

今回のような、具体的な提案はありがたい。しっかり議論していく。

【中澤委員】

「困り感」という言葉も、誰が困っているのかわからない点を指摘しておきたい。実際に困っているのは子ども本人であることがしっかり伝わるとよい。

【加藤委員】

基本方針を変更した趣旨を聞かせてほしい。

【古川市長】

やはり「元気」が最大のキーワードである。これを基本として、教育や医療の環境岐阜県ナンバー1をはじめとした、市が「元気」になる要素を「まるごと元気」と位置づけ、一貫して取り組んできた。その旗印のもと市長、職員が取り組んできたが、やはり、議会、市民なども一緒に取り組んでいかなければならないことを強く感じた。そこで多治見市民11万人が一丸となって取組めるようにという思いを込

めて、「共につくる」という言葉を付けた。

【大嶽委員】

なぜ「共に」なのかという点や「困り感」の主語の点も同様だが、言葉というものはいろいろな捉え方をされるものである。そのため、その背景などを丁寧に説明していくことが大切である。

市長の説明を聞いて、多治見市の躍動感を感じるとともに、多治見市民であることに誇りを感じた。多治見市の大きな変化をアピールするのに、市制 80 周年は非常によいチャンスである。多治見市に住み、暮らすということの意味を市民に考えてもらう契機ともなる。

多治見市への愛着はとても大切である。子どもたちは、学校を通じて多治見市を思い出すことも多い。そういう点で、学校環境は非常に重要である。シンボルツリーのように、校舎が変わっても昔と変わらずあるものがあるとよい。

【古川市長】

シンボルツリーについては、市長、教育長共に大切に考えている。

【古川市長】

教育大綱については、原案どおり改定することについて異議はないか。

(異議なし)

原案どおり改定することとする。

(2) 多治見市学校施設整備計画の策定について

【木下委員】

ICT 環境整備について、多治見市でも一人一台パソコンを実施していくのか。また、そうであればスケジュールはどうか。

【佐藤教育総務課長】

今回、国が示しているギガスクール構想は、一人一台パソコンとネットワーク環境の整備が目玉であり、令和 5 年度まで支援措置が受けられる。また、ネットワーク環境整備への支援措置は、令和 2 年度の 1 年限りとなっている。従って、県内の大半の自治体が、来年度中にネットワーク環境を整備することとなると思う。その後、令和 5 年度までかけて、文部科学省が示すように学校ごとではなく、学年ごとに一人一台パソコンを整備していくこととなると思う。

現段階で補助要綱などは示されておらず詳細は不明であるが、多治見市でも同様となると思う。

【中澤委員】

ギガスクール構想に沿った対応は、資料で示されている「多治見市学校施設整備計画（案）」に盛り込まれているのか。

【佐藤教育総務課長】

本案は、国がギガスクール構想を提唱する前に作成したものである。これまでも無線 LAN の整備は進めてきていたが、ギガスクール構想を受けて修正する予定である。

【中澤委員】

ICT は、不登校や授業についていけない児童・生徒などへの教育に大きな可能性を持っている。今後整備を進めていく中で、そういった点にも目を向けて活用してほしい。

【熊崎所長】

ご指摘の点については、国も有効性を示している。しかし、ICT の活用により何を目指していくのかがはっきりしない状況であり、現在は、今ある環境で何ができるのかを考えていくことが重要である。

そのような状況において、現段階では、インターネットによる情報収集は全員に学んでほしいと考えている。また、特別な支援を必要とする児童・生徒については、今後、ICT 環境の整備状況や ICT 活用の検証が進んでいく中で、学校に来られなくても、学校での授業と同様の教育環境を実現できるような取組を視野に入れていきたい。

【中澤委員】

岐阜市が先進的な取り組みをしていると聞いている。是非参考としてほしい。

また、2月に視察する東京の桜丘中学校でも勉強したいと考えているが、ICT 環境の整備により、教室以外の場所でも学べるような仕組みも大切であると思う。

【古川市長】

ギガスクール構想が突然提唱されて、市として若干戸惑っているが、大切なのは整備された環境の中でどのような教育を実現していくかである。

学校を越えてどの教員でも優秀な教材の活用を可能とする教材センターにより、高いレベルの教材を共有化していくことを実現したい。

【加藤委員】

笠原小学校・笠原中学校が統合整備されるが、笠原幼稚園は取り残されてしまうのか。笠原保育園と笠原幼稚園を統合し、こども園として小中学校と同一敷地内に移転してのが理想である。また、そういった要望も地域から聞いている。

【佐藤教育総務課長】

計画としては、小中学校であるが、ご指摘の要望は検討することとしている。

【古川市長】

市役所内でも大きな異論はない。教育の発展に向け、引き続き検討を進める。

【大嶽委員】

こども園・小学校中学校を1か所に集約していくという構想は、非常に夢がある。多治見市の魅力の一つになる。似たような事例として、恵那の明智でもよい取組がされている。

トイレの改修は、令和2年度で完了という理解でよいか。

【佐藤教育総務課長】

ここでは、各フロア内のいずれかを洋式トイレ化するものである。従って令和2年度の事業完了により、すべてのトイレが洋式化するわけではないが、洋式化率は相当程度上がるものと考えている。

【大嶽委員】

ICT整備を基礎学力の伸長にどのようにつなげるかという点が大切である。また、教材センターにより、前の世代の教育実践に現世代が付け加えて、更に発展していきけるような環境に期待したい。

今般示されたような学校の整備について、保護者に伝えられるとよい。

【佐藤教育総務課長】

個別整備については、予算成立後に各校に知らせており、それを展開してほしい。

【丸山教育指導監】

岐阜県は他と比べても教育レベルは高い。そのような県内においても、多治見市には授業力のある優秀な教員が多いと感じている。

そのような中、各教員の実践や教材を教育研究所に集約しており、各校から見るようにしてあるほか、教育実践論文を各校に見てもらうことで、次の世代にノウハウを引き継げるようにしている。また、中堅教員の教育力アップのための研修会を、年5回開催している。

大量退職を迎えるにあたり、これらの取組を通じて、現在の高い教育力の維持につなげていく。

【古川市長】

幼稚園・保育園でも、退職した園長級職員に、後世の指導に当たってもらっている。そういった重要性は、十分認識している。

【加藤委員】

笠原義務教育学校について、PTA 等にはどのように情報展開するか。

【佐藤教育総務課長】

今後、建設候補地など具体的に決定した段階で、適宜情報共有していきたい。

【古川市長】

加藤委員には、情報展開のタイミングや展開先など、アドバイスいただきたい。

【古川市長】

施設整備計画については、原案どおり策定することに異議はないか。

(異議なし)

原案どおり策定することとする。

(3) その他

【中澤委員】

多治見市では、以前から部活やクラブの取組をしているが、現状はどのようなか。

【東山主幹】

部活・クラブは、年々生徒数が減っており、維持が難しくなっている側面がある。一方、多治見市の現在の仕組みは、スポーツ以外にも、ボランティアなど、さまざまな選択を可能にするものである。

今後も、生徒数や働き方改革などの側面を踏まえ、更に良いものとなるよう検討を進めていく。

【鈴木副教育長】

働き方改革と部活動のベストミックスを考えていきたい。

【安藤校長会長】

多治見市独自のクラブ活動により、トップレベルの大会への参加者が増えていることは、大きな成果である。一方で、本制度開始後 15 年間に過ぎ、指導者、学校規模などにより、これまでどおりにいかない部分が出てきた。各学校、地域、教育委員会などの関係者が連携し、広い視野での検討が必要である。

【古川市長】

これを持って、平成 31 年度第 1 回総合教育会議を閉会する。